

# 暮らし

## 食品残渣 家畜エサに

未利用資源が家畜のエサに――。和歌山市の産業廃棄物処理会社「エコマネジメント」が、食品加工の過程で出る食品残渣などを使った家畜用飼料「エコフィード」を作っている。作り始めたきっかけは、処理しきれずにたまっていた大量のおからだった。

紀の川市桃山町にある「エコの里 桃山工場」には、県内の食品工場などから年間1万トンの食品廃棄物が集まる。おからや麦茶のかす、梅の種、ミカンジュースの搾りかす……。水分が多くて腐りやすい食品残渣を、乾燥させたり、密閉して発酵させたりして保存性を高める。栄養剤を少し足し、独自の配合でかき混ぜれば、エコフィードの出来上がりだ。臭くなく、甘く香ばしいにおいがする。エコフィードは、「エコ」と飼料を意味する「フィード」を合わせた造語。



工場ではエコフィードを手にする 阪口宗平社長＝紀の川市

## 和牛飼育も 食の循環目指す

食品廃棄物を減らし、飼料自給率向上にもつながるとして国も普及に力を入れている。

きっかけは2011年夏だった。豆腐工場から回収したおからを、処理業者に処分しきれないと断られた。大量にたまっていくおから……。それを飼料にしようと思いついた。阪口宗平社長(64)は「最初はかっこいい理由じゃなくて、切羽詰まった状況を打破するためだった」と笑う。

しかし、「作ったものを簡単には使ってくれなかった」と阪口社長。動物園にも頼んで回ったが、「廃棄物から作ったものはいらない」と断られ続けた。

同年9月、台風12号が県内を襲い、甚大な被害が出た。田辺市の畜産農家が牛の飼料を流されて困っていることを知り、おからを使ったエコフィードを持って行ったところ喜ばれた。それから1年半、おからを再利用した飼料を県内の農家に無料で配った。同時に、畜産協会わかや

エコマネジメント 2006年設立。従業員28人。工場系汚泥を中心に産業廃棄物処理業を展開してきた。環境に配慮し、産業廃棄物の無害化や再利用に力を入れる。今年中にはエコフィードの原料を兵庫県の飼料会社に定期販売するなど事業を拡大する。



自社の牛舎でエコフィードを使い飼育している牛＝御坊市、エコマネジメント提供

まの協力のもと、繁殖和牛用エコフィードを作り、テストを続けた。牛の嗜好性が高いという結果が出たため、14年から本格的に販売を始め、翌年には繁殖和牛用の「エコフィード認証」を取得した。

利用する農家が徐々に増え、今では県内の繁殖農家の半数が使ってくれるように。エコフィードで利益が出ているわけではないというが、廃棄物の再利用で企業のイメージが良くなり、本業の産廃処理業において植物業残渣の受け入れ量が以前の倍になったという。昨年3月には、御坊市に自社の牛舎を構え、エコフィードを中心育てている。7年後には100頭を目標にしたいという阪口社長。「『エコフィード牛』として売り出していきたい。和歌山で食の循環を実現していければ」と話す。(大森浩志郎)